

第1回 玉野市総合計画策定検討会 議事概要

日時	平成30年10月16日(火) 13:30~15:20	
場所	玉野市役所 大会議室	
出席者	岡本 輝代志(岡山商科大学名誉教授)	城戸 清宏(玉野市老人クラブ連合会)
	濱川 雅夫(玉野市障害者総合支援協議会)	浜口 誠(玉野市社会福祉協議会)
	平木 由美(玉野市民生委員児童委員協議会)	仲田 節史(玉野市歯科医師会)
	浅野 聰子(玉野市栄養改善協議会)	岡崎 文代(玉野市愛育委員協議会)
	江田 康夫(玉野市文化協会)	豊田 啓介(玉野市体育協会)
	梶原 秀夫(玉野市PTA連合会)	内尾 玲(玉野市女性団体連絡協議会)
	青井 一令(玉野商工会議所)	國屋 利明(地域水産業再生委員会玉野市地区部会)
	齋藤 光暉(玉野市地域農業再生協議会)	赤木 大介(玉野地区労働者福祉協議会)
	小崎 友敬(玉野青年会議所)	池田 敦子(玉野市観光協会)
	田中 徹(玉野市コミュニティ協議会)	森 信(玉野市コミュニティ協議会)
	岡崎 幸生(玉野市コミュニティ協議会)	森 美樹(みなと・まちづくり機構たまの)
	亀田 稔(公募委員)	大賀 和弘(公募委員)
欠席者	渡邊 正俊(玉野市医師会)	
事務局	黒田 晋(市長)	山上 誠二(副市長)
	桑折 恭平(政策財政部長)	小笠原 隆文(総合政策課長)
	岡本 敦(総合政策課室長)	山平 智宏(総合政策課室長)
傍聴人	2人	

議事の概要

1 開会

2 開会あいさつ

3 委員の紹介

4 座長及び副座長選出

事務局：玉野市総合計画策定検討会設置要綱第4条に基づき、委員の互選により検討会の座長及び副座長を定めることとしている。

事務局からの提案だが、座長は、岡山商科大学名誉教授の岡本輝代志委員に、副座長は、玉野市社会福祉協議会の浜口誠委員にお願いしたいと思うがいかがか。

全委員：(意義なし)

事務局：ご異議がないようであれば、岡本委員に座長を、浜口委員に副座長をお願いする。それでは、会議の議事進行については、検討会設置要綱第5条の規定に基づき、岡本座長にお願いする。

5 議 事

事務局 : (1)総合計画策定に係る現状把握分析 最終報告書
(2)総合計画骨子(案)について
(3)地域懇談会の開催状況
※資料により説明。

A委員 : ただいまの事務局からの説明について質問等はあるか。

B委員 : 将来像を掲げ、平成38年度を目指すこととしているが、本市の将来は『観光』を柱にするのか、その他のものを柱にするのかが読み取れない。また、行財政改革について、先日の地域懇談会で平成16年の災害が原因で経常収支比率が悪化したとの説明があったが、十数年経っても改善できていないのに、目標年次までの8年間で改善するのはかなりの努力が必要である。改善に向けた全体の意識改革をビジョンに盛り込むなど、見直すべきではないか。

事務局 : 将来像については、実現に向けた3つのキーワードを柱として設定している。まずは、市民の方にとって住み心地の良いまちづくりを行う、『活力・快適』を1つ目の柱としている。次に、安全・安心に生活でき、健康面でも健やかに暮らせるまちづくりを行う、『安全・安心』を2つ目の柱としている。最後に、青少年の健全や生涯学習等の『人・つながり』を3つ目の柱としている。市の総合計画であるため、各分野を網羅する内容となっている。観光寄りのご指摘をいただいたが、市民の健康づくりと生涯活躍のまちを踏まえた重点目標としている。

行財政改革については、地域懇談会でも触れたが、行財政改革大綱を策定したところであり、この計画では平成29年2月から平成33年3月までを計画期間として、改革を目的とした様々な取組を推進している。この中で、経常収支比率の改善や基金の積み立て等を具体的な目標としており、総合計画においても、施策37「行財政改革の推進」を掲げて取り組んでいくこととしている。

C委員 : 経常収支比率の達成度が非常に悪い。なぜこのような結果になったのか、分析結果について、分子・分母等の具体的な数値を踏まえて教えていただきたい。

事務局 : 経常収支比率の分析については、資料3の48ページに示している。扶助費や社会保障関係経費、市民センター等の人件費が多くなっているため、経常収支比率が大きくなっていると分析している。行財政改革の中で、そういった費用や市民センターの在り方等を検討しているところである。

D委員 : 生涯活躍のまちで移住された人に25万/月の支給が3年間続くと聞いたがそのようなのか。全国的にそういった取組がされていると聞いており、3年のスパンで移住を繰り返す人が増えているらしいが、玉野でこのようなケースはあったのか。

玉野市の地域ブランドとして、温玉めしや紫芋のスイーツ、雑穀等があるが、これらが活かされていないと感じている。また、ののちゃんが浸透しているかと言われれば、そうではないだろう。玉野市に新しい店ができて、県北の人は知らないため、県北の市役所にポスター掲示をお願いするなど、PRしてはどうか。

- 事務局** : 移住支援の25万/月は玉野市では実施していない。また、グルメやののちゃん等についてのご提言については、新たな総合計画の施策39「シティセールスの推進」の項目で参考にさせていただく。
- E委員** : 将来像の“瀬戸内に羽ばたく”とは、どのような意味なのか。また、“中核的な機能”や“たまのからはじまる拠点”とは具体的に何をイメージしているのか。
- 事務局** : 現在、瀬戸内地域が大きく注目されている。その瀬戸内地域の中にまずは玉野ありと思われるようなまちづくりをしていくこと目指して、“瀬戸内に羽ばたく”としている。また、“中核的な機能”とは、公共交通や観光など、様々な機能を総合的に発揮して、瀬戸内地域の中核的な拠点となるまちづくりを目指していくこととしている。
- E委員** : 8年間の計画であり、分野を横断したものとなるのは分かるが、“中核的な機能”や“拠点”というのが分かりにくい。また、人口減少は玉野市だけの問題ではなく、全国的に起こっていることである。
- 事務局** : 人口については東京一極集中と言われている中で、本市は、地域特性を活かし発展するポテンシャルがある。そういった意気込みを持ち、その魅力を広く発信していきたい。
- C委員** : 将来像について、瀬戸内に「羽ばたく」とう表現は弱いイメージに感じる。玉野市が8年後に輝いているという思い込めて、「光る」、「輝く」、「きらめく」など強いイメージのものに再検討すべきではないか。
- F委員** : 市民アンケートにおいて、今後力を入れるべき取組として芸術・文化の回答が31%と少なくない。特に、文化拠点としての市民会館をどうするのか、文化振興に対する予算も少ない状況にある。
- 事務局** : 市民会館については、行財政改革の中で今後の方向性を示すことになる。芸術・文化については、施策体系の一つに位置付けており、具体的な内容については、次回、素案において示させていただく。
- G委員** : 今回の資料の中には、農業についての具体的な内容が示されていない。農業分野の明るい話として、耕作放棄地を活用し、高級バナナやしいたけを栽培しているケースがある。この場では明るい話をすべきではないか。詳細については、後ほど事務局に意見書を提出するのはどうか。
- H委員** : 近年では地域のことは地域で支える流れになってきているが、実際活動しているのは老人会である。玉野市は予算がないため、地域の活動が制約されている。先ほども話があったが、平成16年の災害で財政が悪化し、いまだ改善されていないのもどうか。地域が活性化するための抜本的な改革を目に見える形で示してもらいたい。
- I委員** : 玉野市の環境は非常に良く、ここでしかできないこともあるだろう。市外の人に一度訪れてもらい、リピーターや移住者をどのように増やしていくかを考えていかなければならない。また、若い人の中にも玉野のことを真剣に考えている人は多く、こういった人たちから幅広く意見を聴く機会を設けてはどうか。

- J委員** : 移住の窓口を2011年からしており、これまで53組104人の移住者を支援してきた。玉野に住みたい人は多くいるが、ハードルとなっているのは、住まいが見つからないことである。一方で、玉野市では空き家が増加しており、マッチングがスムーズに行く方法を見い出せればと考えている。
- K委員** : アンケート調査の回答者の割合が高齢者に偏っているが、生産年齢人口が縮小していくのが問題であり、アンケートを活用して、まちづくりを進めるに当たっては、若者と高齢者のバランスを均等にすれば、異なる結果になったのではないか。
- 事務局** : 回答者の年齢割合は高齢者に偏っているが、今後、年齢階層ごとの分析を行い、高齢者だけでなく、若者の意見も分析していく。また、アンケートとは別に市内の企業で働いている20~30代の人に意見聴取を行っている。これらの機会を活用して、若い人の意見を聴取し、計画への反映に取り組んでいる。
- L委員** : 経常収支比率が悪いという意見が多くあり、改善に向けた英断を期待したい。また、高度成長期は財政が安定していたため、施設整備等を行ってきたが、今後は、インターネットの活用などアイデアで市を売り出すことが重要であろう。
- A委員** : 全員の意見を伺うために、事務局の方から意見聴取することが必要であろう。委員の意見を聞いていて、十数年変わっていないじゃないかという意見もあれば、明るい意見もあった。総合計画はまちづくりの総合的な計画であるため、キャッチコピーが当たり障りのないものになるのは仕方がない。意見にあった“中核的”や“拠点”が明確になり、それがキャッチコピーに盛り込めれば良いだろう。また、これからはユニバーサルデザインが重要視されると考える。高山市でユニバーサルデザインを徹底したら、観光客が増えたという事例もある。他の市町村と差別化を図るためには、こうしたことに取り組むことが重要であろう。これからも、玉野に誇りを持てるようなまちづくりを進めていただきたい。

6 その他

- 市長** : 本日、行財政改革に関わるご意見を多くいただいた。玉野市はこの10年間基金が0からはじまり、その間、東日本大震災の影響により学校施設の耐震化対策を行ったものの、現在は約20数億円有している。しかし、これから様々な施策を進めるに当たり、災害等の想定外への対応も必要になるため、財政を改善して、将来の投資へつなげていかなければならない。また、総合計画を策定して終わりではなく、進捗管理をしっかり行い、目標を達成できるように取り組んでいく。

7 閉会